

令和2年9月9日

Vol.6

中津高職員が届ける

# 卒業生からのメッセージ

今回は Vol.4 に引き続き、数学科の塚田先生が届ける、言語聴覚士として働く岩島千菜美さんからのメッセージをお伝えします。



## はじめに…

数学科 塚田先生

高校生の皆さん、こんにちは。

私は2013年度に中津高校を卒業しました。早いもので卒業してからもう7年になり、社会人も3年目です。今の中津高校の先生方で私が教わったことがある先生は塚田先生や日下部先生くらいでしょうか・・・お二人とも授業でも部活でもお世話になり、頭があがりません。塚田先生に「今の高校生に向けて作文を」とのお話を頂いた時、私でいいのかなとも思いましたが、せっかくお話を頂いたので私の経験をお話したいと思います。

## 高校時代

皆さんは今勉強に部活に、忙しい生活をしているかと思います。私も高校時代は勉強と部活を両立すべく頑張っていました。私は勉強はお世辞にも得意ではなく成績はぱっとしませんでした。文章を書くことは得意でしたが、数学や英語は苦手で、いつもクラスの最下位をとっていました。そんな私が今の仕事についているのは、早いうちから志望校を決められたこと、何より周囲の環境が良かったからだと思います。中津高校では勉強するための環境やサポート体制が整っていると思います。私は家では勉強ができないタイプなので、コンパスルームや図書館で勉強していました。皆さんも頑張っているのではないかと思います。日々の予習や小テストのために毎日机に向かう習慣ができたことは大学生になってからも役に立ち、勉強習慣をつくることはとても大切なことだと実感しました。

部活は演劇部に所属し活動していました。毎日活動しており忙しかったです。おかげで効率よく物事を進めることができるようになったと思います。個性豊かな友人たちと励まし合い時に衝突しながら1つの作品をつくりあげるのは、とても楽しいものでした。一人では作品をつくることはできません。より良い作品にするためには自分の考えをうまくまとめて伝え意見をすり合わせ

ていく能力が必要でした。このコミュニケーション能力は今私が仕事をするうえでとても役にたっています。当時の友人たちは全員地元を離れ多種多様な職業についていますが、今でも旅行や食事に行き、当時の話で盛り上がることができます。私は高校卒業とともに演劇はやめてしまいましたが、たくさんの経験を得た3年間でした。



**木沢記念病院（美濃加茂市）言語聴覚士 岩島千菜美さん**  
左から2人目が岩島さん。一番後ろの方も中津高校の卒業生です。

## 今の仕事

さて、思い出話が長くなってしまいましたが、私は今、病院で「言語聴覚士」として働いています。皆さんは「言語聴覚士」という仕事を知っていますか？ほとんどの方は知らないのではないかと思います。言語聴覚士とは、病気や生まれつきの障害によって「ことば・コミュニケーション」「聴覚」「飲み込み」に不自由がある方に対するリハビリを行う専門職です。対象とする領域は広く、年齢はご高齢の方から就学前のお子さんまでみえます。

私が「言語聴覚士」について知ったのは高校2年生の春、進路学習の時間でした。医療系の資格をとって働きたいという漠然とした希望はありましたが、「これだ」という資格はみつけれられていませんでした。演劇部に所属し「声」について興味があったことに加え、元々話すことや食べるのが好き

な私にとって、その援助ができる仕事はぴったりなのではないかと思いました。言語聴覚士になるには4年制の大学か専門学校へ進学する必要があります。養成校は公立大学で1校しかなかったこともあり、志望校は必然的に定まりました。センター試験だけでは判定は厳しいものでしたが、前期試験が得意な小論文と面接であったこともあり、無事第一志望の大学に合格することができました。大学生活は忙しく、毎日勉強に追われていましたが、高校時代に培った勉強習慣があったことが役に立ったと思います。同じ目標をもつ同級生と出会い、楽しく過ごすことができたと思います。同級生は全国から集まっており、いろんな価値観をもつ人と出会えたことで世界が広がったような気持ちでした。つらい時にはやめたくなることもありましたが、自分で進路を決めたこともあり、「自分が選んだ道だから」と踏ん張ることができました。就職しても、悲しいことやつらいこと、泣きたくなることもあります。同じように「自分が選んだ道だから」と頑張っています。言語聴覚士は、私にとって天職、かどうかはわかりませんが、患者様に「ありがとう」「おかげで食べられるようになったよ」と喜んでもらったとき、退院した患者様が「元気にしてるよ」と会いにきてくれたとき、涙がでそうなほど嬉しく、「この仕事をしていてよかった」「また頑張ろう！」というやりがいにつながっています。言語聴覚士は社会で生活する上で必要な「コミュニケーション」と生きるために必要な「食べる」ことを支える仕事です。患者様の生きがいを支えることができる仕事だと思い、へこたれずに日々頑張っています。

## 皆さんへ

私の先輩方からお話を伺うと、「大学に入ってからこの職業を知ってなろうと思った」という方も何人もみえます。いつか「天職」に出会った時、その道を選ぶことができるように、今将来の夢がある人もまだ見つからない人も今できることを頑張ってください。勉強に限らず部活でも趣味でも良いと思います。何か自分の強みだという分野が見つけられたら素敵ですね。きっと今頑張っていることが活かされる日が来ると思いますので、コロナに負けずに頑張りましょう！